

雜 錄

終 戰 後 本 邦 鐵 鋼 生 產 情 況 (I)

(鐵鋼連盟調)

(會計年度)

(單位 噸)

		鉄		鋼			塊
		普通鉄	其他鉄	計	平 爐	電 氣 爐	計
昭和	20 年 全年	468,992			610,262	456,714	1,066,976
〃	21 年 〃	152,462	65,516	217,978	208,434	439,717	648,151
〃	22 年 〃	294,160	102,861	397,021	609,130	492,634	1,101,764
〃	23 年 〃	851,832	148,231	1,000,063	1,465,730	621,206	2,086,936
〃	24 年 〃	1,494,880	192,697	1,687,577	2,823,149	652,264	3,475,413
〃	25 年 〃	2,167,053	266,097	2,433,150	4,468,459	829,282	5,297,741

(其の一)

		普 通 鋼 壓 延 鋼 材											
		大 形			中 形			小 形			厚 板	薄 板	鋸 力
		軌 條 及 タイプレート	形 鋼	棒 鋼	軌 條 及 繼目板	形 鋼	棒 鋼	形 鋼	棒 鋼				
昭和	20 年 全年	16,351	8,336	20,255	7,577	7,190	32,694	1,393	74,112	88,031	43,273	8,169	
〃	21 年 〃	19,417	1,788	462	7,845	4,253	3,414	171	46,918	41,873	47,576	3,654	
〃	22 年 〃	27,230	1,987	3,508	12,727	10,733	5,747	3,382	48,307	99,543	110,186	7,524	
〃	23 年 〃	61,014	25,852	1,752	23,337	36,143	27,420	9,721	134,541	246,705	235,280	18,881	
〃	24 年 〃	134,187	81,846	4,110	31,904	124,032	35,692	12,128	251,176	504,780	438,473	36,580	
〃	25 年 〃	189,946	122,360	4,623	27,972	193,945	42,501	22,573	412,953	912,707	649,397	78,605	

(其の二)

		普 通 鋼 壓 延 鋼 材									
		高級仕上 珪 素		線 材		筒 管 外 輪 帶 鋼			其 他	計	
		鋼 板	鋼 板	普 通	特 殊						
昭和	20 年 全年	3,336	9,456	27,889	12,524	32,179	4,925	2,314	418	400,422	
〃	21 年 〃	2,091	7,785	41,008	15,077	49,777	16,382	7,115	4,864	326,470	
〃	22 年 〃	4,489	19,235	78,093	28,127	73,442	16,457	24,488	2,403	577,698	
〃	23 年 〃	15,229	30,118	123,782	54,138	124,876	21,789	37,457	2,469	1,230,504	
〃	24 年 〃	17,745	34,265	221,261	66,534	187,815	11,740	64,099	4,582	2,262,949	
〃	25 年 〃	32,272	36,480	390,274	61,852	258,891	22,872	109,594	10,647	3,580,464	

終 戰 後 本 邦 鐵 鋼 生 產 情 況 (II)

(鐵鋼連盟調) (曆年)

(單位 噸)

		鉄		鋼			塊
		普通鉄	其他鉄	計	平 轉 爐	電 氣 爐	計
昭和	26 年 計	2,886,860	240,058	3,126,918	5,570,394	931,455	6,501,849
〃	27 年 3月	293,410	17,025	310,435	538,665	73,284	611,949
	4〃	282,498	21,118	303,616	515,013	89,261	604,274
	5〃	291,353	21,149	312,502	521,944	90,393	612,337
	6〃	256,972	19,106	276,078	485,079	89,735	574,814
	7〃	263,849	20,536	284,385	507,780	89,605	597,385
	8〃	257,433	18,769	276,202	494,295	81,545	575,840
	9〃	260,509	16,565	277,074	481,494	78,631	560,125
	10〃	263,694	15,103	278,797	526,027	82,659	608,686
	11〃	258,222	13,242	271,464	497,918	73,224	571,142
	12〃	275,683	12,535	288,218	454,662	71,006	525,668
〃	27 年 計	3,271,693	202,511	3,474,204	6,039,364	948,995	6,988,359
〃	28 年 1月	304,463	9,652	314,115	470,842	55,109	525,951
	2〃	289,486	8,492	297,978	473,289	46,848	520,137
	3〃	331,950	17,001	348,951	553,661	82,189	635,850
	4〃	331,660	15,645	347,305	539,045	83,615	627,600

(其の一)	熱 間 歴 延 鋼 材										
	形 鋼						棒 鋼			管 材	線 材 普 通
	重軌條	輕軌條	大 形	中 形	小 形	その他	大 形	中 形	小 形		
昭和 26 年 計	144,007	22,832	226,060	244,841	42,352	12,284	15,085	70,258	89,213	266,769	427,086
27 年 1 月	17,224	2,347	11,468	10,043	2,205	387	557	10,220	560,429	17,849	35,693
2 月	22,204	1,154	14,616	14,975	2,423	609	477	4,117	71,678	22,172	33,549
3 月	20,451	1,370	15,536	21,156	4,453	484	311	4,471	68,060	20,566	40,114
4 月	20,634	1,282	19,531	18,564	3,847	654	861	5,053	69,457	18,687	41,667
5 月	20,801	2,514	15,572	16,821	2,531	509	361	6,273	67,914	21,767	28,378
6 月	21,535	2,887	13,472	14,818	3,567	586	408	5,961	48,465	19,943	26,435
7 月	22,530	4,448	15,388	15,257	2,643	829	1,014	7,357	48,057	20,533	24,728
8 月	18,089	3,820	11,918	15,167	4,412	672	510	6,421	50,782	15,964	26,067
9 月	19,610	4,929	6,199	15,952	4,548	740	1,777	5,742	47,903	27,860	29,059
10 月	17,586	3,486	8,364	18,687	5,263	1,234	2,063	8,201	48,989	27,806	30,681
11 月	20,778	3,047	7,514	19,740	5,673	1,107	1,809	8,656	45,955	26,118	27,791
12 月	13,508	2,400	9,758	21,033	4,164	1,648	1,945	7,810	46,649	25,068	28,425
27 年 計	234,950	33,684	149,336	202,213	45,729	9,459	12,093	80,282	674,338	264,333	372,587

(其の二)	熱 間 歴 延 鋼 材							冷 間 仕 上 鋼 材			
	線 材 特 殊	帶 鋼	厚 板	薄 板	珪素鋼板	外 輪	計	高級仕 上鋼板	フリキ	筒 管	
											昭和 26 年 計
27 年 1 月	6,159	11,093	114,493	83,405	3,732	1,327	388,631	3,667	6,000	20,052	
2 月	5,917	13,411	117,036	88,929	2,814	1,463	417,544	3,556	7,200	22,442	
3 月	6,546	13,428	121,550	86,667	3,232	1,639	430,034	3,805	7,216	22,966	
4 月	6,523	14,501	109,102	82,964	2,837	1,526	417,690	3,062	7,573	21,934	
5 月	9,010	14,768	112,740	63,787	3,640	1,578	388,964	2,681	6,528	22,408	
6 月	9,125	16,117	111,766	54,887	1,761	1,596	353,332	2,749	5,802	22,366	
7 月	6,313	13,763	106,197	59,180	2,749	1,484	352,467	2,441	5,170	23,272	
8 月	4,748	14,280	119,667	57,790	2,764	1,708	354,779	2,073	5,934	24,429	
9 月	4,803	14,257	126,292	62,146	2,455	1,430	375,702	1,652	8,010	26,096	
10 月	6,539	16,617	135,587	63,662	3,003	1,636	399,404	1,731	9,346	29,682	
11 月	7,555	12,736	124,482	68,043	3,041	1,442	385,487	2,804	9,274	28,414	
12 月	7,266	17,817	120,148	61,002	3,045	1,783	373,469	2,800	8,414	28,599	
27 年 計	80,504	172,788	1419,060	832,462	35,073	18,612	4637,503	33,021	86,431	292,662	

註. 掲上数字は、ミスプリントの訂正及メーカーよりの報告訂正等がありますので、總べて最近號のものが正確です。

	熱 間 歴 延 鋼 材											
	重軌條	輕軌條	シート パイル	形 鋼			リムリン グバー サツシュ バー	棒 鋼			管 材	スケルプ
				大形	中形	小形		大形	中形	小形		
昭和28年 1月	12,957	2,157	598	8,423	18,509	3,954	1,286	1,054	5,954	40,264	23,014	1,562
2 月	19,690	3,489	1,951	8,815	26,764	3,352	1,507	1,598	8,099	35,852	24,020	3,088
3 月	25,248	3,378	1,947	14,476	28,059	6,383	1,486	526	7,713	48,758	24,821	3,303
4 月	27,061	3,099	782	11,757	28,215	6,351	1,271	1,803	8,298	50,802	26,614	2,541

	熱 間 歴 延 鋼 材								冷間仕上鋼材				
	線 材		帶鋼	厚 板	中板	薄板	廣幅帶鋼	珪 素 鋼 板	外 輪	合 計	鋼 管	フリキ	高級仕 上鋼板
	普 通	特 殊											
昭和28年 1月	26,873	6,226	14,332	84,519	17,068	50,035	12,379	2,722	1,590	335,476	20,982	7,343	2,501
2 月	27,475	8,203	15,814	91,824	19,757	52,155	14,890	2,921	1,138	372,397	30,122	7,997	2,467
3 月	30,832	9,706	19,560	103,011	33,195	62,820	16,133	4,287	1,556	447,198	39,406	7,156	3,093
4 月	33,890	10,514	18,921	93,719	33,902	58,694	17,140	4,534	1,401	441,309	34,972	8,563	3,439

備考. 昭和 28 年 1 月より、歴延鋼材の品目を上記の如く改む。

## 日本鐵鋼協會第 38 回 (昭和 28 年 4 月 6 日) 通常總會に於ける表彰者

第 23 回 服部賞受領者推薦理由書

第 16 回 俵賞受領者 審定書

第 20 回 香村賞受領者推薦理由書

第 15 回 渡邊賞受領者推薦理由書

### 服部賞牌受領者

(製鐵技術及び學術上の進歩向上)

富士製鐵株式會社釜石製鐵所長

工學士 里村 伸二君

君は大正 10 年 2 月九州帝國大學工學部冶金學科卒業後直ちに株式會社日本製鋼所に入社、爾來輪西製鐵株式會社、鐵鋼統制會等を経て、現在富士製鐵株式會社釜石製鐵所長に至るまで 32 年間終始製鐵業界に直接關與して斯界の進歩向上に多大の貢獻をなした。

特にこの間日鐵輪西製鐵所に在勤中は、同所仲町大型高爐 3 基及び輪西町高爐 4 基の建設操業を始め、國內資源の活用を図るべく道内褐鐵礦を主原料とした燒結爐操業に成功した。その後鐵鋼協會銑鐵部會の委員長としては國內原料による合理的な熔鐵爐作業その他廣汎な熔鐵爐關係資料の執筆蒐集により斯界の指導に當る等我國熔鐵爐技術水準の向上に好箇の指標を興えて、製鐵技術界に多大の功績を残した。更に終戦後は逸早く周密にして高遠なる構想の下に高爐再開に當り、高爐調査團長として豊富なる學識經驗に基き技術指導に献身努力した。昭和 26 年 5 月富士製鐵株式會社釜石製鐵所長に就任後は同所の能率的操業と製品の品質向上に寄與した。これを要するに終始鐵鋼業界にあつて製鐵技術及び學術の進歩向上に貢獻するところ極めて大である。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第 7 條により服部賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

### 服部賞金受領者

(平爐操業方式の改善)

八幡製鐵株式會社八幡製鐵所製鋼部第四製鋼課長

工學士 山野井 博君

君は昭和 11 年 3 月九州帝國大學工學部冶金學科を卒業後直ちに八幡製鐵所技術課に勤務、翌 12 年 7 月製鋼部に轉じ、爾來製鋼及びその附帶作業の研究改善に盡瘁して今日に至つている。

この間、特に昭和 25 年 11 月第四製鋼工場が米國式の製鋼工場として再發足するにあたり、臨時建設部製鋼設備課長として建設企畫の中樞に參畫し、昭和 27 年 12 月に完成後は引續き製鋼課長として同工場の作業を統括

すると共に平爐操業方式の研究改善に努め、平爐天井溫度、壓力に對する燃料自動制御装置を利用して燃焼條件としての諸因子を確認し、平爐操業基準の確立を計り、合理的燃焼方法に關する指針を得、その研究成果を發表した。このほか「タルボット平爐による Si-Mn-Cr 鋼熔製作業標準の確立」「平爐爐内ガス燃焼と平爐爐内壓の研究」についてもその成果を發表しており、斯界技術の進歩發達に貢獻した功績はまことに大である。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第 8 條により服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 服部賞金受領者

(鋼管及び鋼材の壓延技術の改良及び發達)

日本鋼管株式會社川崎製鐵所歴延部長

工學士 桂 寛一郎君

君は昭和 8 年東北帝國大學工學部金屬工學科を卒業後直ちに昭和鋼管株式會社に奉職し、同社が昭和 10 年 6 月日本鋼管株式會社と合併するに至り同社の川崎製鐵所に移り、爾來製管工場、條鋼工場を歴任し昭和 23 年 2 月歴延部長となり今日に至つている。

この間鍛接管の鍛着度向上、航空機用特殊鋼材、快削鋼材の歴延等について詳細、適切な研究を行い、品質の向上に甚大な貢獻をなした。更に造船用バルブプレート、炭坑用型鋼、あるいは汽罐用、化學工業用鋼管等近時關連工業の進歩發達に伴つて必要とされる鋼材、鋼管類の製造に大なる功績を示した。

一方、歴延設備の更新についての研究を進め、分塊工場、帶鋼工場、連続式鍛接管工場の建設に當つては常に有効適切な意見を呈示しその完成に協力すると共に現有設備の稼働については慎重、緻密な科學的管理方式を採り品質の改善、後進技術者の指導等に努め歴延技術の進歩改良に貢獻するところまことに大である。

仍て同君は服部博士記念資金取扱規則第 8 條により服部賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞牌受領者

(油井用鋼管製造法の確立)

住友金屬工業株式會社鋼管製造所副所長

工學士 小田 助男君

君は昭和 7 年 3 月京都帝國大學工學部探鑛冶金學科を

卒業後直ちに住友伸銅管株式會社尼崎工場に入社し、製鋼工場長、製造部長を歴任し、この間電気弧光爐、並びにアルミス式平爐の新設およびその改良に多大の貢献をなした。また製鋼技術の研究に献身的努力を傾けて優良リムド鋼管材を完成し、その品質において一般用鋼管として国内需要に顕著な実績を示した。

昭和 24 年 8 月所長代理、同 25 年 6 月副所長となり今日に及んでいるが、専ら製鋼技術、製管技術の研究に没頭し、外國製品を凌駕する優秀なる油井用鋼管、輸送管等の製鋼、壓延、製管、機械加工等の各工程に涉り、一貫した多量生産技術を確立して鋼管製造技術ならびに學術に寄與するところ極めて大である。

仍て香村博士寄贈資金取扱規則第 4 條により香村賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞金受領者 (第 9 條適用)

#### (大型特殊鋼材の熱処理法の考案及び改善)

株式會社日本製鋼所室蘭製作所鍛壓部熱鍊工場長  
工學士 小谷 守彦君

君は昭和 14 年 3 月東北大學工學部金屬工學科卒業後直ちに日本製鋼所に入社、室蘭製作所鍛鍊工場に勤務し同 19 年 中板工場に轉じ壓延作業の監督主務を経て、同 22 年熱鍊工場長となり、大型特殊鋼材の熱処理の指導監督の任に當り今日に至っている。

この間大型鍛鋼品熱処理作業方式の改善および大型スリーブロールの焼入、焼焔方式の確立に努め、また大型廻轉式電気低温燒鈍爐の設置を推奨して、大型發電機用製品の製造に寄與し、大型特殊鋼材の熱処理法の進歩、改善に貢献するところまことに大である。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第 9 條により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 香村賞金受領者 (第 9 條適用)

#### (鐵鑛石のペレタイジング法完成)

株式會社日立製作所安來工場冶金研究所員  
中村 信夫君

君は昭和 18 年 3 月京城高等工業學校應用化學科を卒業し、直ちに日立製作所に入社、仁川工場に勤務し、終戦後同社安來工場に轉じ同工場冶金研究所にあつて製鋼及び製鐵の研究に従事し今日に至っている。

この間製鋼作業に重要な砂疵の研究その他數多くの研究報告を發表し工場生産に寄與している。特に同社における砂鐵を原料とする木炭銑の製造に關してペレタイジング法の研究にいち早く着手し、その基礎的諸實驗に基いて、鳥上分工場に本邦最初のペレタイジング設備を

完成し、從來の出銑適當木炭量を著しく低下せしめ、我國における鐵鑛石處理法の進歩に貢献する所極めて大である。

仍て同君は香村博士寄贈資金取扱規則第 9 條により香村賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 俵賞受領者

#### 學術上優秀論文

##### (基本系溶融スラグの電気傳導度に関する研究)

(會誌 鐵と鋼, 昭和 27 年 5, 6, 7, 8 月號)

東京大學助教授 工學士 松下 幸雄君  
茨城大學工學部講師 工學士 森 一美君

#### 技術上優秀論文

##### (特殊鑄鋼の研究)

(會誌 鐵と鋼, 昭和 27 年 1, 2, 3, 4, 5 月號)

九州工業大學教授 工學博士 三ヶ島秀雄君

#### 渡邊賞牌受領者

##### (特殊鋼の國産化)

大同製鋼株式會社常務取締役  
工學博士 錦織 清治君

君は昭和 3 年 3 月東北帝國大學工學部金屬工學科卒業後直ちに同學科の助手を命ぜられ昭和 6 年工學部講師、昭和 9 年 7 月助教授となり、昭和 10 年 3 月大同製鋼株式會社に入社、研究部長、大江工場長、技術部長を歴任、昭和 10 年 5 月工學博士の學位を受け、昭和 19 年 4 月同社取締役に就任、星崎工場長、生産部長を経て昭和 25 年 2 月新大同製鋼株式會社常務取締役となり今日に至っている。

この間その職歴、研究報告より明かな如く、特殊鋼の國産化に於て昭和 8 年頃よりその基礎的研究及び航空機並びに兵器用特殊鋼の規格制定に必要な研究および工業的生産に多大の業績を挙げ、我國の特殊鋼製造技術及び學術の進歩發達に貢献する所極めて顯著である。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第 4 條により渡邊賞牌を受ける資格充分なるものと認める。

### 渡邊賞金受領者

#### (鐵鋼に及ぼす特殊元素の影響についての研究)

早稻田大學助教授 工學士 長谷川 正義君

君は昭和 16 年 3 月早稻田大學理工學部煉鐵冶金學科卒業後直ちに陸軍二年現役兵として入隊、昭和 20 年 9 月召集解除、同年 10 月早稻田大學教務補助、昭和 21 年 4 月助教授に嘱任され、現在に至っている。

この間第八陸軍技術研究所に勤務、「鐵鋼に及ぼすジル

コニウムの影響」に就いて調査及び研究を行い、除隊後引続きチタニウム、セリウム等の研究を行い、更に硼素鋼の研究を進めて幾多の研究論文を發表し、鐵鋼に及ぼす特殊元素の諸作用を明かにすると共に工學的應用の途を見出し、特殊鋼に關して學術及び技術上貢獻するところまことに大である。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 渡邊賞金受領者

(特殊鋼品質管理の確立)

日本特殊鋼株式會社製鋼部成品課長

布袋田正三君

君は昭和 10 年 3 月横濱高等工業學校電氣化學科を卒業、同年 4 月同校電氣化學科助手を拜命、昭和 13 年 4 月日本特殊鋼株式會社に入社製鋼課疵取係に勤務し、昭和 21 年 6 月製鋼部成品課精整係長を経て昭和 27 年 6 月成品課長となり現在に至っている。

この間特殊鋼塊、鋼片、成品の内外部疵検査および疵取作業の改善を行い、マクロ組織検査、砂疵検査、電解腐蝕検査、焼入検査等の検査規準を定めて、品質管理を行い、肌焼鋼、特殊工具鋼、高速度鋼、不銹鋼等の品質改善に甚大な功績を挙げた。特に蒸氣タービン翼用、B クローム不銹鋼の耐錆試験法及び製造方式を定め優秀な B クローム不銹鋼の生産に多大の貢獻をなした。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5

條により渡邊賞金を受ける資格充分なるものと認める。

### 渡邊賞金受領者

(特殊鋼の品質改善)

日本高周波鋼業株式會社富山工場製造部長

工學士 淺田 八良君

君は昭和 15 年東京帝國大學工學部冶金學科を卒業後、神戸製鋼所に入社、特殊鋼の製造に従事、終戦と共に退社名古屋通産局に入り、鐵鋼行政に盡瘁し、昭和 24 年日本高周波鋼業に入社、富山工場製鋼部次長兼鍛延課長を経て昭和 27 年同工場製造部長となり現在に至っている。

この間軸受鋼の研究改良に努め砂疵の減少、顯微鏡組織、五大炭化物の改善に努力し、また鋼球用線材についても脱炭機構を研究し、表面疵の防止を計り品質の改善に注目すべき多くの實績をあげた。殊に遠心鑄造法による中空軸受鋼の研究については鍛延工程を経ずして熱處理のみによる輪材の製造法を完成し、優良な軸受輪鋼の製造に成功した。

更に砂鐵を原料とする電學精練法による低炭素銑、低磷銑の製造にも携り、特殊鋼の品質におよぼす特異性につき組織的な研究を進め、特殊鋼の品質改善に貢獻するところまことに大である。

仍て同君は日本特殊鋼株式會社寄贈資金取扱規則第5條により渡邊賞金を受ける資格充分なるものと認める。

## —日本鐵鋼協會・日本金屬學會共同懇親會—

本會第 45 回講演大會も無事盛會裡に終了した昭和 28 年 4 月 8 日午後 5 時より本郷の學士會館で兩學會の主催にて懇親會を開催した。時恰も櫻花爛漫の好天氣に恵まれた日で出席者は合計約百名であつた。

昨年の例に倣つて兩學會の大先輩 70 歳以上の御高齢の方を特に御招待申上げた。開會に先立ち出席者一同の記念撮影をなし、続いて會館二階の大廣間にて開宴に移つた。

山岡武氏司會の下に先ず日本鐵鋼協會を代表して會長伊藤隆吉氏より大先輩並に受賞者に對し御挨拶があり更に日本金屬學會を代表して會長岩瀬慶三氏より同様の御挨拶があつた。開宴後は大先輩俵博士を始め御出席の桂博士、金子博士、多田博士、村上博士、石原社長、黒田氏、川上博士、松下前會長等より有益なる御話があり、(本多先生は御病氣の爲御出席がなかつたのは誠に遺憾であつた)次で受賞者を代表して錦織清治氏、小田助男氏、前川靜彌氏より感謝の辭があつた。尙、會員三島博士、谷村教授、的場教授、茅教授等より感想が述べられ、午後 7 時和氣霽々の裡に會を閉じた。出席者芳名は次の通りであつた。

### 賓 客

俵 國一博士、桂 弁三博士、金子恭輔博士、村上武次郎博士、川上義弘博士、黒田泰造氏、石原米太郎氏、松下長久氏、多田禮吉博士。

### 受賞者出席者(日本鐵鋼協會)

山野井 博君、錦織清治君、長谷川正義君、布袋田正三君、小田助男君、小谷守彦君、中村信夫君、松下幸雄君、森 一美君、三ヶ島秀雄君、(日本金屬學會)前川靜彌君。

### 一般出席者(日本鐵鋼協會のみ)(順序不同)

伊藤隆吉君、小林佐三郎君、内川 悟君、石原善雄君、菊地浩介君、横山均次君、湯川正夫君、志村清次郎君、石田四郎君、三島徳七君、山岡 武君、田中清治君、芥川 武君、阿部信男君、伊木常世君、石田 稔君、岡本正三君、俵 信次君、山木正義君、安田洋一君、佐々川清君、黒田正夫君、田畑農夫君、原 茂樹君、穂坂徳四郎君、木内昭季君、小平俊雄君、上平育雄君、嘉村平八君、網谷俊平君、河井泰治君、海江田弘也君、丹羽貴知藏君、梅津七藏君、室井嘉治馬君、服部義雄君、菊田多利男君、鹽澤正一君、谷口光平君、河合正吉君、谷村 熙君、兒玉晋臣君、花岡元吉君、須永己代次君